## 【平成23年度】運営費交付金債務及び当期振替額等の明細

## (1) 運営費交付金債務の増減の明細

(単位:円)

				当 期	振 替 額		
交付年度	期首残高	交付金当期 交 付 額	運営費交付金 収 益	資産見返 運営費交付金	資本剰余金	小 計	期末残高
平成20年度	36, 458, 094	0	0	0	0	0	36, 458, 094
平成21年度	44, 619, 730	0	0	0	0	0	44, 619, 730
平成22年度	47, 020, 347	0	0	0	0	0	47, 020, 347
平成23年度	0	1, 325, 973, 000	963, 346, 115	115, 184, 674	0	1, 078, 530, 789	247, 442, 211
合 計	128, 098, 171	1, 325, 973, 000	963, 346, 115	115, 184, 674	0	1, 078, 530, 789	375, 540, 382

## (2) 運営費交付金債務の当期振替額の明細

①20年度交付分 (単位:円)

①20年度文刊为 (単位:円				
区	分	金 額		内
業務達成基準	運営費交付金収益		0	
	資産見返運営費交付金		0	/ ※ 7か 生 上 せ 3 m - 1 - 2 - 3 m - 7 o - 1 - fm - 1 - 1
	資本剰余金		0	<ul><li>一(業務達成基準を採用した業務は無い)</li></ul>
	計		0	
期間進行基準 による振替額	運営費交付金収益		0	
	資産見返運営費交付金		0	(知即)佐仁甘油・松口」 ル 準砂 (4 種)
	資本剰余金		0	<ul><li>一(期間進行基準を採用した業務は無い)</li></ul>
	計		0	
費用進行基準による振替額	運営費交付金収益		0	① 費用進行基準を採用した業務:全ての業務
	資産見返運営費交付金		0	② 当該業務に係る損益等 ア)損益計算書に計上した費用の額:0円
	資本剰余金		0	イ) 自己収入に係る収益計上額 : 0円 ウ) 固定資産の取得額 : 0円
	計		0	③ 運営費交付金の振替額の積算根拠 当期振替額なし
会計基準第81	第3項による振替額		0	
合	計		0	

## ② 2 1 年度交付分 (単位:円)

区	分	金 額	内訳	
業務達成基準による振替額	運営費交付金収益	0		
	資産見返運営費交付金	0	<ul><li>一(業務達成基準を採用した業務は無い)</li></ul>	
	資本剰余金	0	- (未労達成基準を休用した未務は無い)	
	計	0		
期間進行基準による振替額	運営費交付金収益	0	- (期間進行基準を採用した業務は無い)	
	資産見返運営費交付金	0		
	資本剰余金	0		
	計	0		
	運営費交付金収益	0	① 費用進行基準を採用した業務:全ての業務	
費用進行基準	資産見返運営費交付金	0	② 当該業務に係る損益等 ア) 損益計算書に計上した費用の額 : 0円	
による振替額	資本剰余金	0	イ)自己収入に係る収益計上額 : 0円 ウ)固定資産の取得額 : 0円	
	計	0	③ 運営費交付金の振替額の積算根拠 当期振替額なし	
会計基準第81	第3項による振替額	0		
合	計	0		

③ 2 2 年度交付分 (単位:円)

区	分	金 額	内訳	
業務達成基準による振替額	運営費交付金収益	0		
	資産見返運営費交付金	0	- (業務達成基準を採用した業務は無い)	
	資本剰余金	0	- (未労連収签坪を休州した未労は無いり	
	計	0		
期間進行基準による振替額	運営費交付金収益	0		
	資産見返運営費交付金	0	ー (期間進行基準を採用した業務は無い)	
	資本剰余金	0		
	計	0		
	運営費交付金収益	0	① 費用進行基準を採用した業務:全ての業務	
費用進行基準	資産見返運営費交付金	0	② 当該業務に係る損益等 ア) 損益計算書に計上した費用の額 : 0円	
による振替額	資本剰余金	0	イ)自己収入に係る収益計上額 : 0円 ウ)固定資産の取得額 : 0円	
	<u>i</u>	0	③ 運営費交付金の振替額の積算根拠 当期振替額なし	
会計基準第81	第3項による振替額	0		
合	計	0		

④ 2 3年度交付分(単位:円)

区	分	金 額	内 訳
業務達成基準による振替額	運営費交付金収益	0	
	資産見返運営費交付金	0	- (業務達成基準を採用した業務は無い)
	資本剰余金	0	一(来防廷展室中で採用した来防は無い)
	計	0	
期間進行基準による振替額	運営費交付金収益	0	
	資産見返運営費交付金	0	<ul><li>一(期間進行基準を採用した業務は無い)</li></ul>
	資本剰余金	0	一(別則是打盔平で採用した来扮は無い)
	計	0	
	運営費交付金収益	963, 346, 115	① 費用進行基準を採用した業務:全ての業務
費用進行基準による振替額	資産見返運営費交付金	115, 184, 674	(役職員等人件費:155,522,491円、その他北方対策業務費:779,450,671円、
	資本剰余金	0	その他経費:26,057,499円、固定資産除却経費:2,383,783円) イ)自己収入に係る収益計上額:68,329円 ウ)固定資産の取得額:115,184,674円
	計	1, 078, 530, 789	<ul><li>③ 運営費交付金の振替額の積算根拠</li><li>運営費交付金収益 963,346,115円 =費用 963,414,444円-収益計上 68,329円 資産見返運営費交付金 115,184,674円 = 資産取得 115,184,674円</li></ul>
会計基準第81第3項による振替額		0	
合 計		1, 078, 530, 789	

交付年度	運営費交付金債務残高		残高の発生理由及び収益化等の計画
2 0 年度	業務達成基準を採用 した業務に係る分	0	- (業務達成基準を採用した業務は無い)
	期間進行基準を採用 した業務に係る分	0	- (期間進行基準を採用した業務は無い)
	費用進行基準を採用 した業務に係る分	36, 458, 094	<ul> <li>○ 費用進行基準を採用した業務は、全ての業務である。</li> <li>○ 運営費交付金債務残高の主な発生理由は、入札差額が生じたことによる経費の減少及び人事交流等に伴う経費の減少等に伴い、運営費交付金の収益化額が計画を下回り、翌事業年度に繰り越したもの。なお、中期計画で予定した本事業年度に実施すべき業務については、計画どおりに実施済みであり、業務の未達成による運営費交付金債務の翌事業年度への繰越額はない。</li> <li>○ 翌事業年度に繰り越した運営費交付金債務残高については、平成24事業年度において、収益化</li> </ul>
	計	36, 458, 094	する予定である。
		36, 458, 094	
	業務達成基準を採用 した業務に係る分	0	- (業務達成基準を採用した業務は無い)
	期間進行基準を採用 した業務に係る分	0	- (期間進行基準を採用した業務は無い)
			○ 費用進行基準を採用した業務は、全ての業務である。
2 1 年度	費用進行基準を採用した業務に係る分	44, 619, 730	○ 運営費交付金債務残高の主な発生理由は、入札差額が生じたことによる経費の減少及び人事交流等に伴う経費の減少等に伴い、運営費交付金の収益化額が計画を下回り、翌事業年度に繰り越したもの。なお、中期計画で予定した本事業年度に実施すべき業務については、計画どおりに実施済みであり、業務の未達成による運営費交付金債務の翌事業年度への繰越額はない。
			<ul><li>○ 翌事業年度に繰り越した運営費交付金債務残高については、平成24事業年度において、収益化する予定である。</li></ul>
	計	44, 619, 730	
	業務達成基準を採用 した業務に係る分	0	- (業務達成基準を採用した業務は無い)
	期間進行基準を採用 した業務に係る分	0	<ul><li>一(期間進行基準を採用した業務は無い)</li></ul>
			○ 費用進行基準を採用した業務は、全ての業務である。
2 2 年度	費用進行基準を採用した業務に係る分	47, 020, 347	○ 運営費交付金債務残高の主な発生理由は、入札差額が生じたことによる経費の減少及び人事交流等に伴う経費の減少等に伴い、運営費交付金の収益化額が計画を下回り、翌事業年度に繰り越したもの。なお、中期計画で予定した本事業年度に実施すべき業務については、計画どおりに実施済みであり、業務の未達成による運営費交付金債務の翌事業年度への繰越額はない。
			<ul><li>○ 翌事業年度に繰り越した運営費交付金債務残高については、平成24事業年度において、収益化する予定である。</li></ul>
	B-1-	47, 020, 347	
	業務達成基準を採用 した業務に係る分	0	- (業務達成基準を採用した業務は無い)
23年度	期間進行基準を採用 した業務に係る分	0	- (期間進行基準を採用した業務は無い)
			○ 費用進行基準を採用した業務は、全ての業務である。
	費用進行基準を採用した業務に係る分	247, 442, 211	○ 運営費交付金債務残高の主な発生理由は、入札差額が生じたことによる経費の減少及び人事交流等に伴う経費の減少等に伴い、運営費交付金の収益化額が計画を下回り、翌事業年度に繰り越したもの。なお、中期計画で予定した本事業年度に実施すべき業務については、計画どおりに実施済みであり、業務の未達成による運営費交付金債務の翌事業年度への繰越額はない。
			<ul><li>○ 翌事業年度に繰り越した運営費交付金債務残高については、翌事業年度において、収益化する 予定である。</li></ul>
	計	247, 442, 211	